

基本構想の振り返り

計画の位置づけと対象施設①

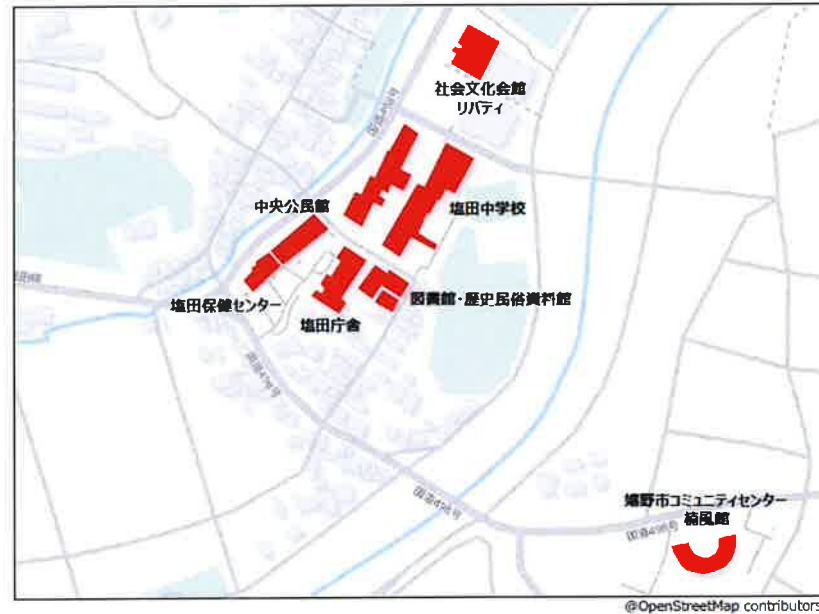
- 昨年度策定した「基本構想」は塩田庁舎等の利活用に係る理念や方針を定義したものでした。
- 今年度策定を予定している「基本計画」は、「基本構想」に基づいた各施設ごとの機能や配置計画などを決定するものです。

【令和5年度】(本書)

基本構想	塩田庁舎等利活用について、その理念・方針等の定義 【決定すべきこと】 1) 塩田庁舎等の利活用のコンセプト(理念・方針) 2) 塩田庁舎等の必要となる機能 3) 塩田庁舎等周辺地区の利活用イメージ
基本計画	基本構想に基づいた、塩田庁舎等利活用における、施設ごとの機能・配置計画 【決定すべきこと】 1) 基本構想における方針の具体化 2) 塩田庁舎等利活用における、諸室・設備の概要 3) 運営方針 4) 新庁舎と連携した提供サービスの確認
基本設計	基本計画に基づいて、塩田庁舎等利活用に向けた機能、運営方針及び概算事業費用の検討 【決定すべきこと】 1) 塩田庁舎等利活用における、諸室・設備の規模・仕様 2) 諸室の間取り 3) イメージパースの作成 4) 工事発注方法・管理主体・運営方法 5) 概算工事費用
実施設計	基本設計に基づいて、塩田庁舎等利活用施設の設計、工事数量算出及び実施事業費用の算出 【決定すべきこと】 1) 各種設計図面(建築・設備) 2) 工事数量・事業費用 3) その他

今年度検討

- 塩田庁舎利活用基本計画で対象としている施設は「塩田庁舎」「中央公民館(老人福祉センターを含む)」「図書館・歴史民俗資料館」「保健センター」を中心に、「塩田中学校」「リバティ」「楠風館」などとの機能連携についても考えます。



施設名	建築年・築年数	延床面積	備考
塩田庁舎	平成 5 年(1993 年)築 30 年	1,263 m ²	
中央公民館	昭和 53 年(1978 年)築 45 年	2,026 m ²	旧耐震設計
図書館・歴史民俗資料館	昭和 61 年(1986 年)築 37 年	1,103 m ²	
塩田保健センター	平成 10 年(1998 年)築 25 年	1,263 m ²	
塩田中学校	平成 26 年(2014 年)築 9 年	8,454 m ²	校舎・体育館・武道場部室
社会文化会館「リバティ」	平成 26 年(2014 年)築 9 年	4,684 m ²	
嬭野市コミュニティセンター(楠風館)	平成 16 年(2004 年)築 19 年	1,241 m ²	

計画の位置づけと対象施設② ～塩田庁舎及び周辺公共施設の概要～

① 塩田庁舎

塩田庁舎に、市長室、議会等の主たる部門を設置し、他部署は2庁舎に振分けて運営しています。総務・防災関連、市民窓口、福祉関連の一部など、市民窓口サービス部門は両庁舎に設置しています。

施設の状態としては、屋上・外部においてはタイルのクラック、バルコニーの苔等以外に目立った劣化は見られませんが、地下駐車場の天井の爆裂（補修あり）やエフロレンス、アスファルト路面の段差、亀裂等が目立ちます。内部では、内壁のクラック等は見られますが、大きな問題はありません。



② 中央公民館・老人福祉センター

中央公民館は、毎日のように利用されている利用度の高い施設です。老人福祉センターでは、デイサービスが運営されています。

施設の状態としては、屋上部は特に問題はありませんが、外壁においてクラックや塗装の剥離、シーリングの劣化等が見られます。内部においても、天井の水染みや内壁のクラック、クロス劣化など、経年による老朽化が散見されます。

旧耐震の設計による建物のため、耐震性に懸念があります。

また、避難所に指定されています。



③ 図書館・歴史民俗資料館

図書館では、図書室の利用のほか、読み聞かせなどの取り組みが行われています。また図書館2階にある学習室の利用率は高い状況です。

歴史民俗資料館は、塩田の文化や産業の歴史のほか、石工の歴史や塩田津の建造物の解説など貴重な遺産を展示・収蔵しています。

施設の状態としては、外部では、外壁のひび割れやシーリングの劣化が見られ、内部においても、壁のひび割れが散見されます。歴史民俗資料館に設置されている燻蒸室など特化した機能の移転は困難と考えられます。



④ 塩田保健センター

地域住民の総合的な健康づくり対策を推進し、健康増進及び疾病予防を図ることを目的として設置されており、保健指導及び相談、栄養指導及び相談、集団検診、母子の相談や健診などを実施しています。施設の状態としては大きな問題はありません。

設置目的に特化して建てられているため、施設の機能移転などは困難と考えられます。

また、避難所に指定されています。



⑤ 塩田中学校

塩田中学校は、平成26年に新築された2階建ての校舎です。令和5年度は271人の生徒が在学しています。

本施設は、大雨時の浸水の際の水害対策を重視して設計されており、全体が上げ床の高床構造となっており、緊急時の避難経路に対応しているほか、中庭は大雨の際に遊水地の役割を果たしています。

施設の状態としては、リバティ同様に築年数が9年程度と新しく、特に大きな問題も見られません。



⑥ 社会文化会館「リバティ」

社会文化会館「リバティ」は、スポーツ・文化活動を通じた市内外の交流の場として、地域に開かれた市民の誰もが利用しやすい施設として毎日のように利用されており、本市の市民文化施設として中心となる施設となっています。

施設の状態としては築年数が9年程度と新しく、特に大きな問題も見られません。



⑦ 嬉野市コミュニティセンター「楠風館」

楠風館では、会議、研修をはじめ、仲間どうし話し合い、趣味のサークル活動などに利用されています。また、風呂のほか、トレーニングルームも設置しており、日頃の健康づくりの場としても利用されています。

施設の状態としては、外部では大きな問題は見られませんが、内部では天井の水染みや内壁のクラックなどの劣化が見られます。

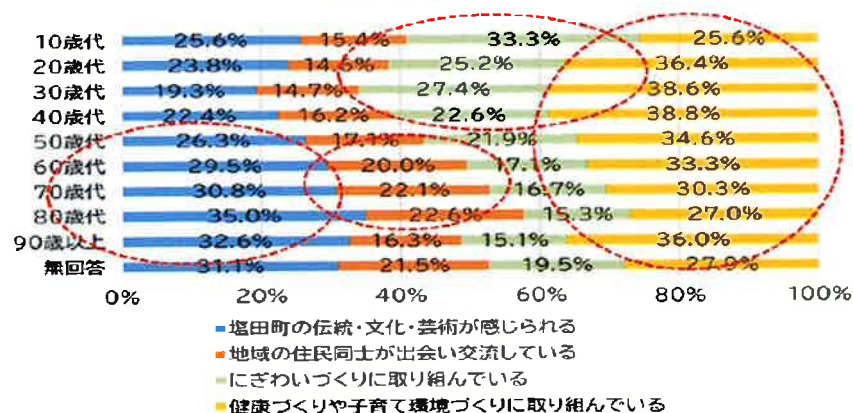
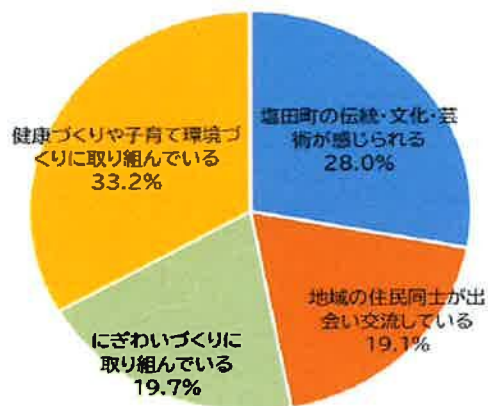


市民アンケートとワークショップ①

市民アンケートは、塩田地区4コミュニティの3,289世帯を対象に、世帯主及び同居されている18歳以上の方を対象に実施。

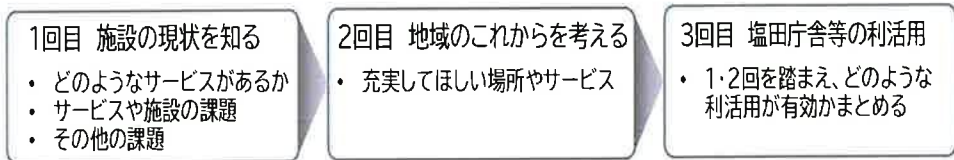
「塩田町の将来像の重要性」では、「健康づくりや子育て環境づくり」「塩田町の伝統・文化・芸術」という回答が多いが、「にぎわいづくり」や「地域の住民同士の出会い交流」という回答も一定数を占めている。

内訳として、「健康づくりや子育て環境づくり」は年齢を問わず重要と回答。「にぎわいづくり」は若い年齢層が志向、「塩田町の伝統・文化・芸術」及び「地域の住民同士の出会い交流」は高い年齢層で重要と考える傾向がみられる。



市民ワークショップは一般公募のほか、市民アンケートを踏まえ、関係団体や塩田中学校・嬉野高校(塩田校舎)にも声をかけ、28名の市民が参加。

市民ワークショップでは、施設を実際に視察することから始め、「個人の集まりが地域を作っていく」という発想から、「〇〇をしてほしい」ではなく「自分ならこうしたい」という考え方で地域の理想を想定し、塩田庁舎及び周辺公共施設の利活用について意見を出し合いました。



塩田庁舎等利活用に係る地域の将来像(各班のキャッチフレーズより)

未来は人。
人と人がつながり、つながりつづけていく地域。
人が住みたくなるような健康で活力のある地域。若者が夢を語る地域。

- 必要な情報が必要な人に届いていない。デジタル化は進めていくけど、やっぱり人がつないでいく。そのためには人を集めたり、人が集まる場所をつくる。そして継続して人のつながりを作り続けていく。
- 生活者(住民自身)が生活しやすい環境で、多世代が健康でいられて、いつまでも学び続けられる地域をつくる。
- 子どもたちが自由に活用できる居場所を用意し、遊び・学習できる地域をつくる。
- 塩田川や塩田津などの地域資産を充実させて、活力がある、観光客や移住者に選んでもらえるような魅力的な地域をつくっていく。

市民アンケート及び市民ワークショップの分析

- 市民アンケート及び市民ワークショップの分析から「行政窓口機能」に加え「子育て支援機能」「市民活動機能」「教育・学習機能」「伝統・文化・芸術活動機能」「健康・福祉支援機能」「出会い・交流機能」「にぎわい創出・活性化機能」など総合的な機能を持った施設整備が求められている。
- 「健康づくり・子育て環境づくり」では、健康維持・増進のための健康施設や保健・健康・子育てに関して一体的に利用できるサービスを求める意見が多い。
- 「にぎわいづくり」では、「集客施設への活用」「産業振興施設への活用」や企業や店舗の誘致への意見が多い。
- 「伝統・文化・芸術」では、塩田町の伝統・文化・芸術の体験や住民が中心となった文化芸術活動への意見が多い。
- 「出会い・交流」は、住民が参加するイベントや催し物の開催や地域の多世代が交流することへの関心が高く、市内外から人が訪れる交流を望む声も多い。
- 災害対応として、避難所機能の充実への要望が多い。
- その他、塩田庁舎等への交通環境や塩田庁舎前駐車場の公園・緑地化の可能性も含めた再整備の検討が求められている。

これらの要望へ対応するためには、個々の施設の個別の利用の在り方を超えて、塩田庁舎及び周辺公共施設を一体として整備する必要があると同時に、リバティや楠風館など類似・代用機能を持つ施設も含めた総合的な機能再編の検討や塩田津との連携効果の検討なども併せて行う必要があると思われます。

現状から見える課題の整理と対応

- 行政窓口機能は、より質の高い行政サービスを検討
- 子どもの遊び場や学習の場など、子どもたちが集える空間整備を検討
- 多様化する交流機会の創出を検討
- イベントや催し物などの機会を増やし、施設自体の利用促進を検討
- 財政負担の軽減を図るための、施設機能の複合化・多機能化による施設サービスの向上を検討
- 地域住民の高齢化に伴うコミュニティ活動の低下や、人口構成の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した公共施設サービスを検討
- 耐震性の問題、老朽化や設備機能が不十分であるなど、十分な施設サービスを提供できていないことが懸念される施設の解決策を検討
- 公共施設として必要な設備（多目的トイレ、エレベーター等）だけではなく、各施設が提供するサービスに適した設備を検討
- 施設は、地域の拠点として、多世代の市民が気軽に集え・利用でき、コミュニティ活動の場・情報交換の場となる施設として整備を検討
- 自動車を交通手段とする利用者が多いことから、駐車スペースや駐車台数を考慮して検討
- 高齢社会を念頭においた施設整備や公共交通の在り方など、関連計画を踏まえて検討
- 市民が利用できる会議室やフリースペースを整備するとともに、生活利便性の向上のために売店や飲食店等の併設を検討
- 利用者にとって同施設内に様々な機能を配置することによるメリットもあることから、ハード・ソフトの両面からの整備を検討
- まちの情報を取り扱う機能等を導入する等、市の情報発信と併せて地域課題を解決するきっかけとなる拠点としての整備を検討
- 懸念される水害対策等を踏まえた施設機能を検討

基本理念

人と人がつながり、つながりつづけていく地域
塩田地区の新たな賑わいの創出

【賑わいの方向性】

■ 生活の頼りとなり、日常的にひとが集まる「つながり」・「賑わい」

行政サービスの充実や、さまざまな情報発信とイベントスペースの創出により、多くの人を呼ぶことができる施設・内容を目指します。

■ 憩い・交流の場としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区内に、ほっとできる憩いの空間として整備し、子どもから高齢者まで、多世代の人々の交流を促進する機能を目指します。

■ ひとや文化を育む拠点としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区の歴史・伝統との連携や、文化・生涯学習施設、多彩な文化事業のほか、市民の生涯学習活動にも対応した施設とすることを目指します。

基本方針

■ 気軽に「集う」「憩う」場

文化・伝統・歴史・芸術や生涯学習にあまり触れることのない市民でも「行ってみたい」と思えるような、集い、遊び、憩いのある空間や機能を設けます。また、ふらっと訪れた人々が「ちょっとやってみよう」と気軽に参加して楽しめる体験型の事業も多く提供します。個性ある塩田の文化を「創りだす」、「発信する」場、それぞれの諸室の機能を活かし、運営面でも工夫をして、塩田でしか観られない、体験できない個性ある事業を楽しめるようにします。また、継続して個性的な事業を展開し、塩田の魅力を発見・発信する場となることを目指します。

■ 多様な生涯学習を通じて「学ぶ」「育む」場

公民館機能を活かし、市民の学びを育み、地域の課題解決等に寄与する講座等の提供、様々な活動の場となることを目指します。

■ バリアなく「出会う」「触れ合う」場

世代や居住地の異なる市民、障がい者、外国籍住民など、誰でも訪れやすい施設やサービスの提供や鑑賞・体験等ができる事業の提供を通じ、物理的なバリア、心理的なバリアを取り払い、多くの人が出会いや交流を生み出すなど、住民ひとりひとりが地域の一員として支え合える場となることを目指します。

■ 未来につながる文化・伝統・歴史・芸術の担い手を「育てる」「継承する」場

市内の文化・伝統・歴史・芸術団体や、文化・伝統・歴史・芸術関係の部活動のスキルアップの機会の提供、文化・伝統・歴史・芸術を支える人材の育成を推進し、多様な文化、郷土の歴史等を未来につなげていく持続可能な体制・環境づくりを目指します。

【新しい施設（地域）整備にあたっての基本コンセプト】

地域の魅力が創出され、世代を超えた地域交流拠点

コンセプト

● 生活拠点の軸となる施設（地域）

各種拠点機能（行政サービスによる生活拠点、子育て支援、生涯学習、産業振興、市民交流、情報発信）を持たせ、常時利用者が出入りし、賑わいや魅力が創出される中枢拠点として施設（地域）を目指します。

● 文化・伝統・歴史・芸術が身近に感じられる施設（地域）

塩田津を中心に、住民に趣味等の気軽な楽しみ方や日常生活を充実させることができる“居場所”と思われる塩田地区の中心的施設（地域）を目指します。

● デジタルと新しい生活スタイルで新たな魅力を生む施設（地域）

機能連携による公共サービスの質を高めるとともに、効果的な施設運営（公設民営、市民主体の施設運営等）に取り組みます。各施設へのWi-Fiの設置やSNSなど、様々な情報伝達手段の活用により、行政情報などが利用者に届く仕組みや利用しやすい施設運営に取り組み、新しい生活スタイルを支える魅力ある施設（地域）を目指します。

● 子育て・福祉へのサポートが充実した施設（地域）

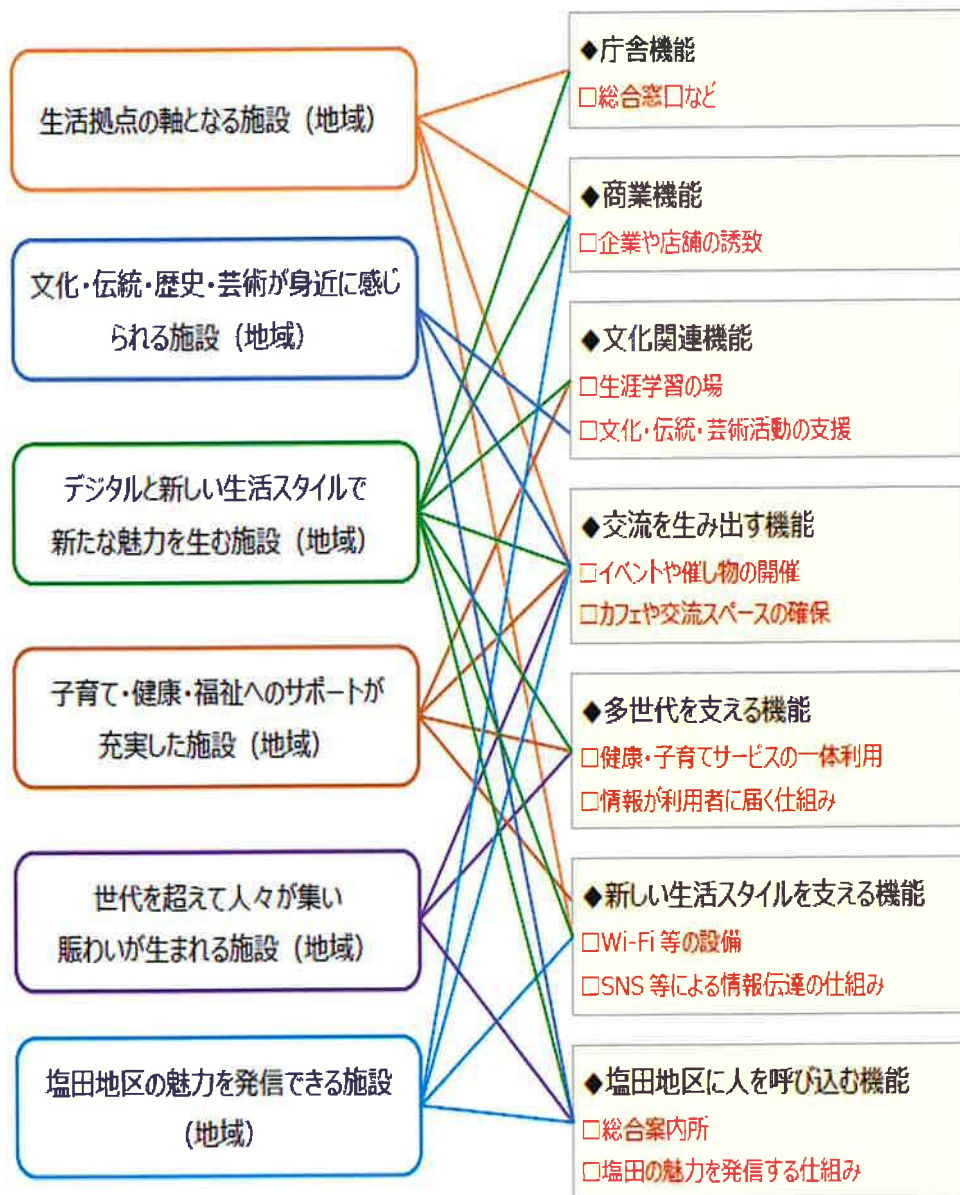
子育て世代、高齢者及び障がい者等への支援サービスの充実を図り、いつでも気軽に訪問できる施設（地域）を目指します。また、健康・子育て支援など、利用者同士の情報交換や交流を促進する機能を目指します。

● 世代を超えて人々が集い、賑わいが生まれる施設（地域）

共用スペースを中心として各機能を配置することで、子どもから大人までの市民が顔を合わせられる施設（地域）を目指します。

● 塩田地区の魅力を発信できる施設（地域）

塩田津の文化・歴史をはじめ、長崎街道や志田焼など塩田地区の魅力を発信し、市外から多くの人を呼び込めることや移住促進につながる情報を発信できる施設（地域）を目指します。



基本計画に向けて

本基本構想では、市民の意見を踏まえ、塩田庁舎等利活用の基本理念やコンセプトや必要な機能についてとりまとめました。

今後は、利活用の具体化や実現に向けた事業化の検討を踏まえ、塩田庁舎等利活用における諸室・設備の概要や施設の運用方針、提供サービスの概要などを基本計画としてとりまとめていきます。

基本計画の検討については、塩田庁舎及び周辺公共施設の一体的な整備に加え、リバティや楠風館など類似・代用機能を持つ施設も含めた総合的な機能再編の検討も必要であることから、行政だけではなく民間活力の導入による事業の検討なども重要となってきます。

これらのことから、塩田庁舎等の利活用では、民間事業者との対話を重ね、そのアイデアやノウハウ、資金を活用することによるサービスの向上やコストの削減など、公民連携という事業手法についても視野に入れていきます。

基本計画策定の進め方

基本計画の策定にあたり、4つの取り組みを実施します。

取り組み① 施設機能やサービスの現状整理

現在行われているサービス実態の整理と新しい施設整備に求められる必要面積の把握。
→施設利用者アンケートの実施など

- 現状のサービスはどのように実施され、どれくらいの面積で実施されているか？
- 施設利用者は各施設のサービスについてどのような感想を持っているか？
- 塩田庁舎等の利用可能面積を踏まえ、中央公民館・老人福祉センターのサービスや機能は再編で充当可能か？
- サービスを再編した際の利用者のメリット・デメリットは？

取り組み② 先行事例の視察

「まちづくり」や「にぎわいづくり」など先行的に実施されている地域拠点施設を視察し、塩田地区で実施する場合のイメージを作る。

取り組み③ サウンディング調査

整備する地域拠点施設に求められる機能の実現化に向けて民間のアイデアを募る。

取り組み④ 利活用案の検討と基本計画(案)の取りまとめ

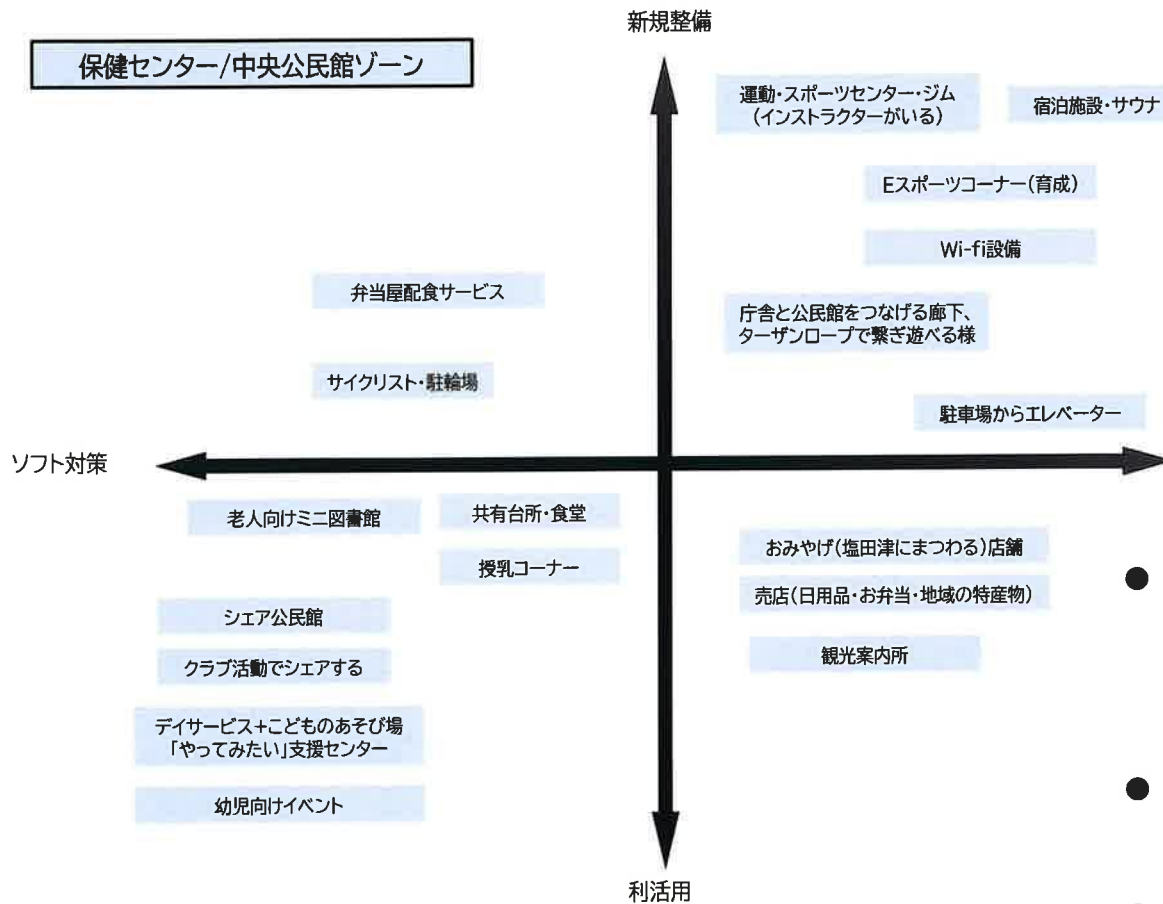
取り組み①～③を踏まえ、事務局で整理するいくつかの再編案を作成し、比較検討を行うとともに、事業化の可能性について検討を行う。

基本計画策定の進め方①

利活用検討(機能再編)の主たる施設及びエリア

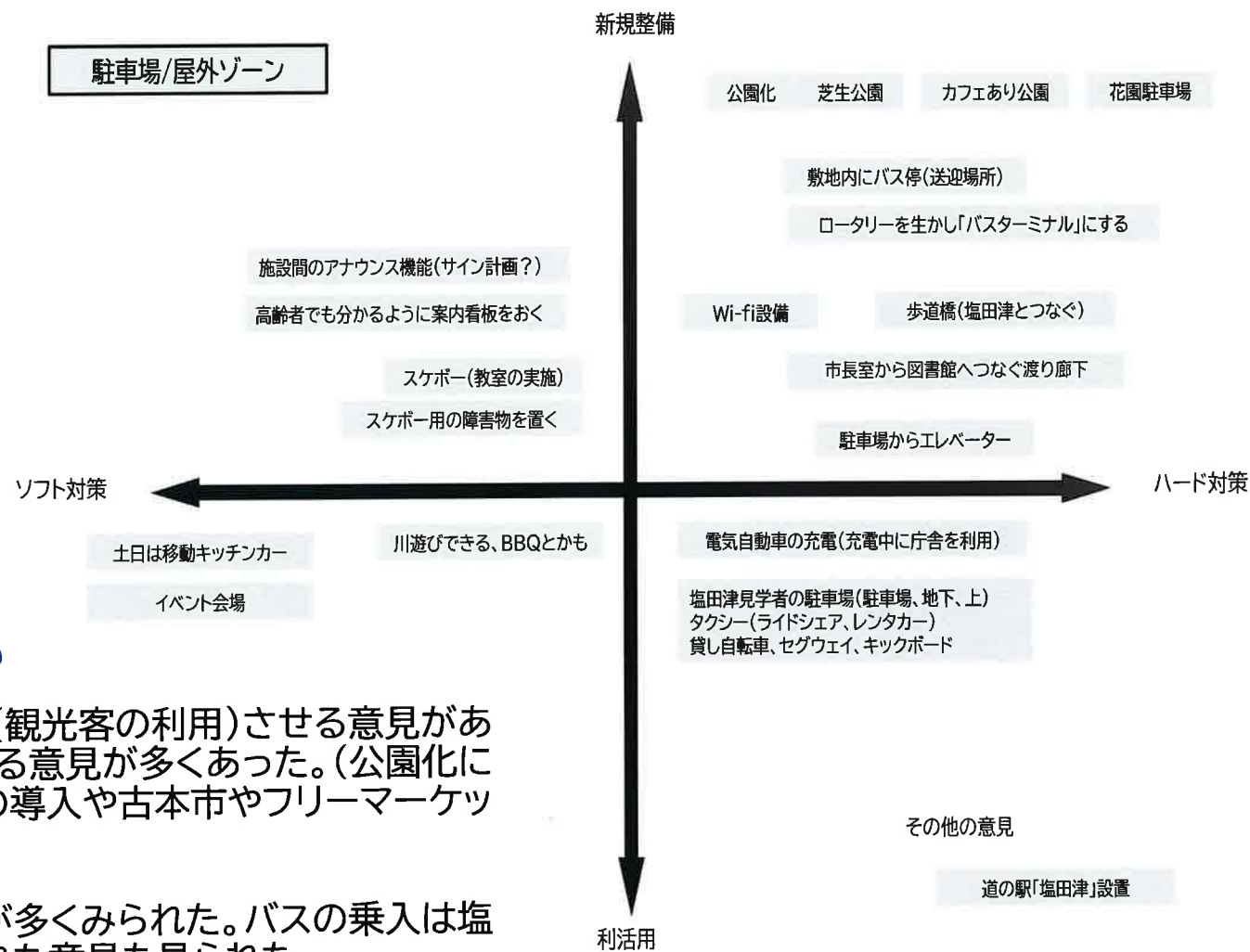


基本計画策定の進め方②-1 ~参考:機能再編のアイデア(市民ワークショップ)~



保健センター/中央公民館ゾーンのまとめ

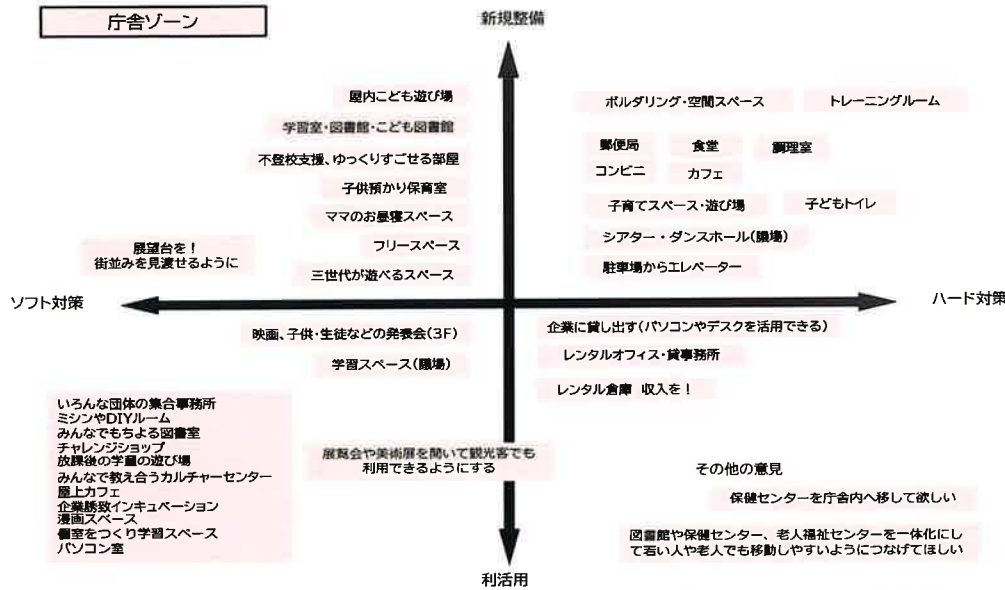
- 保健センターはそのまま活用することを基本に、まちの健康センターとしての機能充実の意見と、関連してジム・スポーツセンター(インストラクター)の設置という意見があった。
- 中央公民館の調理室を使った取り組み(イベント案)への意見が多い。
- また、塩田津と関連付けた、観光案内所、お土産や売店としての活用や、塩田地区にない宿泊施設やサウナへの転用などの意見が見られた。
- 周辺の公民館が老朽化していることからシェア公民館としての利用する意見もあった。
- その他、Wi-fi設備、(地下)駐車場からのエレベーターなど設備への意見があった。



駐車場/屋外ゾーンのまとめ

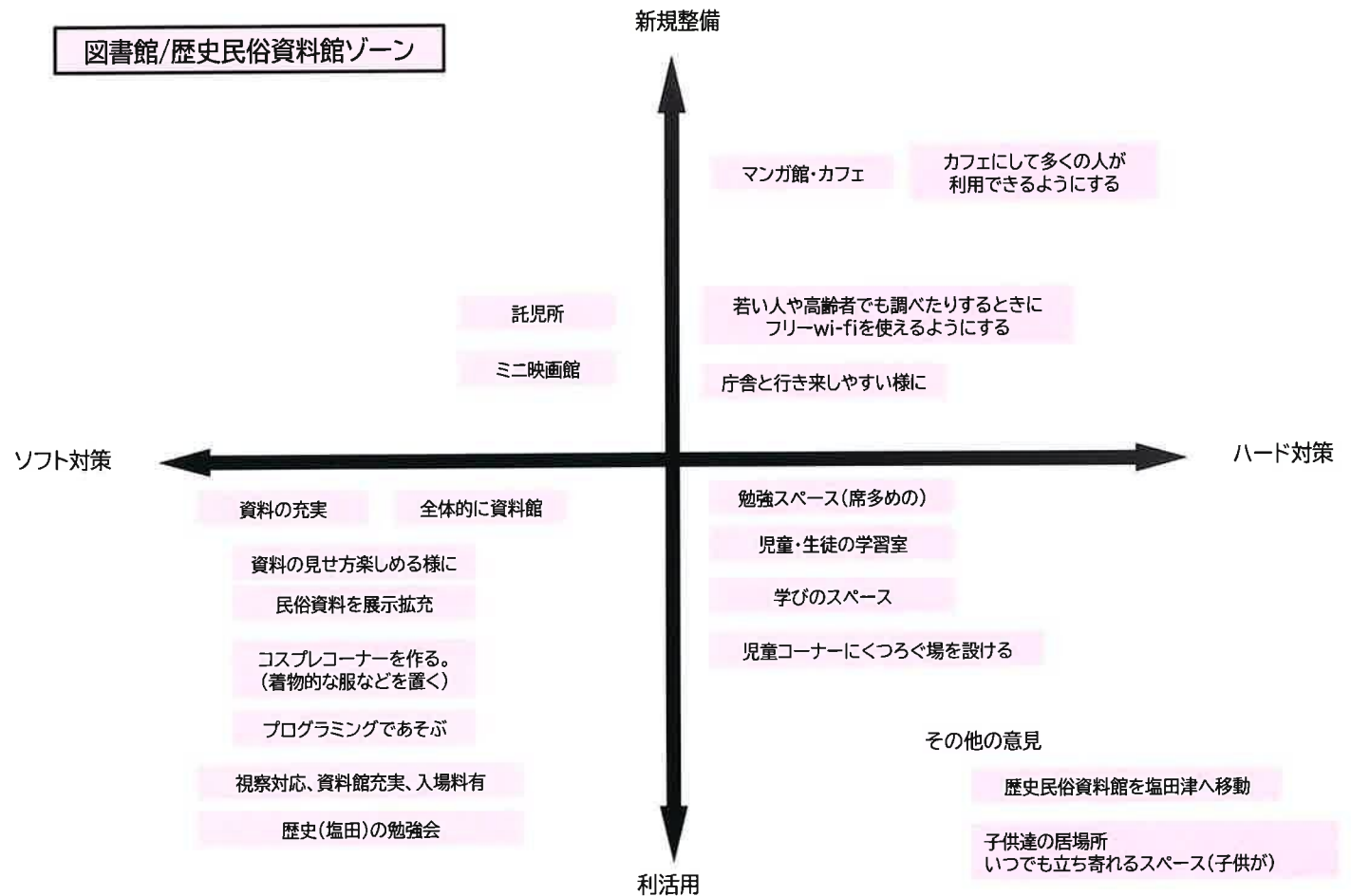
- 塩田津との連携から駐車場機能を充実(観光客の利用)させる意見がある一方で、緑地化して公園として利用する意見が多くあった。(公園化により、カフェ、キッチンカー、フードカーの導入や古本市やフリーマーケットなどイベント広場として利用)
- また、バス停、バスロータリーへの要望が多くみられた。バスの乗入は塩田津との連携を踏まえ観光バスも含まれた意見も見られた。
- その他、道の駅としての利用やスケボーができるスペースの確保など。
- 施設間のサイン計画や塩田津とつなげた歩道橋の設置、(地下)駐車場からのエレベーターなど設備への意見があった。

基本計画策定の進め方②ー3 ～参考:機能再編のアイデア(市民ワークショップ)～



庁舎ゾーンのまとめ

- 1Fの利用として、生活に必要な公共サービス(郵便局)やコンビニ、食堂・カフェといった庁舎の窓口利用時に有効な機能への意見が多い。関連して窓口に来た際の子供預かりやママのお昼寝スペースの設置のほか、多世代交流スペース、貸し仕事スペースなどスペースを利活用する案があった。
- 2Fの利用としては、図書館や子育て支援利用への意見が多い。
- 3Fは諸室を公民館活動として利用(DIY、カルチャースクール)するほか、レンタルオフィスや貸し会議室として利用という意見があった。
- また3Fからの展望を利用して塩田津を望む展望台としての利用する意見があった。
- 議場はシアター、演奏会、発表会などの利用。
- 庁舎の利用では、子供の遊び場、チャレンジショップ(古本屋など)、カルチャースクール、もちより図書館や学習の場など土日の活用に対する意見が見られた。
- その他、トレーニングジムやポルダリングの設置という意見もあった。



図書館/歴史民俗資料館ゾーンのまとめ

- 図書館は、学びの場としてとらえる意見が多く、学習環境の充実への意見が多い。
- 歴史民俗資料館は、資料や展示の充実の意見が多い一方、展示機能を分けて、塩田津へ移管するアイデアがあった。
- 図書館や歴史民俗資料館に対しては利活用やソフト対策への意見が多く、新規のハード対策への意見は少なかった。

基本計画策定の進め方③-1 ~参考:機能再編のアイデア(施設管理者アンケート)~

あなたが管理する施設或いはサービス名: こどもセンター「リュック」

設問1)

現在行っている市民サービスについて、塩田庁舎へ機能移転して同様のサービスが可能かどうかお答えください。

選択肢例) ①.可能 2.一部なら可能 3.機能移転は困難 4.その他

1. 可能 と回答して頂いた方への質問

(ア)機能移転することにより想定される懸念で該当するを○ (複数可)

- ①利用者の利便性、②プライバシーの保護、③個人情報の管理、④施設のセキュリティ、
⑤利用者の利用時間帯、⑥施設の運用、⑦バリアフリー対応、⑧その他

想定される懸念を具体的に記載して下さい。

回答例: ①について、現在の施設の立地条件が良く、かえって不便になる

④について

子どもが他の場所へ安易に出ていかないように、また不審者が入って来ないように仕切り等が必要。

⑤について

- 土・日も開所できるか
- 子どもと一緒に遊べる「ひろば型」のこどもセンターだが、利用者の声や走り回る音がうるさい等の苦情が、ほかの業務からでてこないか。

⑦について

こどもやベビーカーに配慮した建物改修が必要。
(段差解消、すり設置、子どもが寝転んだりできる床、タビ等の改修)

(イ)機能移転することにより想定されるメリットで該当するを○ (複数可)

- ①利用者の利便性、②プライバシーの保護、③個人情報の管理、④施設のセキュリティ、
⑤利用者の利用時間帯、⑥施設の運用、⑦バリアフリー対応、⑧その他

想定されるメリットを具体的に記載して下さい。

回答例: ⑦について、現在の施設はエレベーターが無いので来場者の利便性上がる。

①について

- 駐車場が広い。
- 保健センターが近くにあるため、利用者からの発達・発育に関する相談もスムーズにつながる。
- また、保健師との連携もとりやすい。
- 利用者は、こどもセンターに来ながら行政手続きもできる。

設問2)

現在実施している市民サービスについて、他の施設の機能で、塩田庁舎内に統合されることで相乗効果が期待できると思われるサービスがあれば記載して下さい。また実施に当たっての想定される注意点などもあれば記載して下さい。

相乗効果が期待できるサービス	統合されることで期待できる相乗効果
回答例 図書館	図書館と一緒にすることで、サービスを利用する子ども達や保護者が一緒に活動できる場を提供できる。 ワークショップなども企画出来る。
図書館	○図書館と一緒にすることで、たくさんの絵本の読み聞かせができる。 ○利用者が増える。
〃	(注:意:点) 遊び声等が響いて、図書館がうるさくなる可能性がある。(防音壁等の必要性がでる)
保健センター	保健師に相談を円滑につなげることができる。 保健師と連携がとれる。

基本計画策定の進め方③-2 ~参考:機能再編のアイデア(施設管理者アンケート)~

あなたが管理する施設或いはサービス名: 塩田図書館

設問1)

現在行っている市民サービスについて、塩田庁舎へ機能移転して同様のサービスが可能かどうかお答えください。

選択肢例) ①可能 2.一部なら可能 3.機能移転は困難 4.その他

1.可能と回答して頂いた方への質問

(ア)機能移転することにより想定される懸念で該当するを○(複数可)

- ①利用者の利便性、②プライバシーの保護、③個人情報の管理、④施設のセキュリティ、
⑤利用者の利用時間帯、⑥施設の運用、⑦バリアフリー対応、⑧その他

想定される懸念を具体的に記載して下さい。

回答例:①について、現在の施設の立地条件が良く、かえって不便になる

- ⑤・月曜と第3木曜、祝日の翌日が平日の場合、休館日となる。
⑥ 平日(火~金)は19時30分閉館、9時の閉館となり、
他部署と閉館時間が違うため、区別して欲しい。
④・閉館時に立入できないようにセキュリティをしっかりして欲しい。
再発行代等、金銭も扱うため。
⑧・嬉野図書館との本の移動も、方舎間便で行っているのに、
便は残して欲しい。(行方本や返却本、相互貸借の本など)
学習スペース、おはなし会ができるスペースは残してほしい。

(イ)機能移転することにより想定されるメリットで該当するを○(複数可)

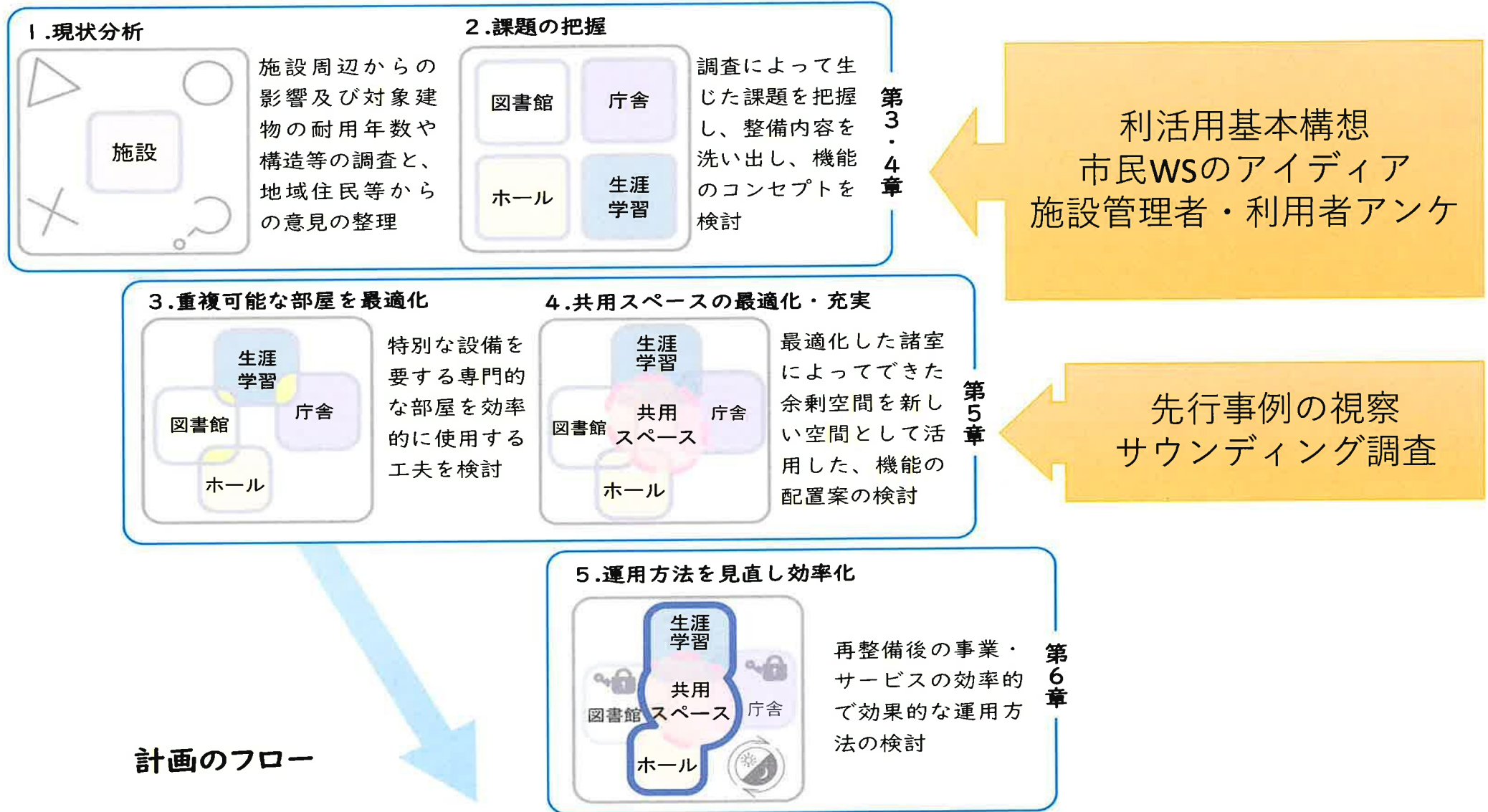
- ①利用者の利便性、②プライバシーの保護、③個人情報の管理、④施設のセキュリティ、
⑤利用者の利用時間帯、⑥施設の運用、⑦バリアフリー対応、⑧その他

想定されるメリットを具体的に記載して下さい。

回答例:(7)について、現在の施設はエレベーターが無いので来場者の利便性が止がる。

- ① 駐車場が広がる。保健センター、リョウケ、社協との連携(両本、相互利用)がとりやすくなる。
⑥ 現在、倉庫も狭く、開架面積も小さいため、本の保管場所が広がるのは助かる。
⑦ 馬車場からフラットに来れるのは、利用者にとって利用しやすくなる。

施設利用の現状を踏まえ施設の最適化を図るとともに、基本構想の考え方を基本に、先行事例やサウンディング調査など得られたアイデアなどを参考にしながら施設の利活用案を検討。



基本計画策定の進め方④-2 ~参考:施設再編(利活用)案の進め方~

現在の施設利用状況を踏まえた
施設機能の最適化・縮充の考え方。

用途	現施設	現室名	現 状	面積
ホール	當麻文化 会館	ホール	30~50人以下の利用が多く、満席になるイベントが少ない	570 m ²
		控室		38 m ²

規模等の適正・共用化

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考	想定稼働率
ホール	多目的スタジオ	250 m ²	200人	音楽・講演・運動	40%

用途	現施設	現室名	現 状	面積
会議	當麻文化 会館	2階大研修室	可動間仕切りを使用せず広い部屋を少人数で利用している	132 m ²
		2階中研修室		84 m ²
		2階小研修室		40 m ²
		2階団体交流室		31 m ²
	當麻 図書館	2階会議室	稼働率が50%以下であり、予約が取りにくい状況ではない	115 m ²
		2階ミーティングルーム		25 m ²
	當麻庁舎	1階会議室	申請・選挙事務等のスペースとして利用する時期は、利用率は高い	20 m ²
生涯学習	當麻文化 会館	3階音楽室	稼働率が40%を超えており、高い利用率となっている	74 m ²
		3階セミナー室		63 m ²
		3階メディアルーム	平均利用率が12%以下となっており、特定の設備を備えた室は利用率が特に低い傾向にある	63 m ²
		3階調理実習室		84 m ²
		3階陶芸室		52 m ²
		3階創作室		58 m ²
		3階和室		59 m ²

規模等の適正・共用化

※約63%の縮充

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考	想定稼働率
生涯学習 多目的	共用活動スペース1	150 m ²	80人	会議・講演等	40%
	共用活動スペース2	80 m ²	30人	会議・その他	40%
	共用活動スペース3	50 m ²	20人	会議・その他	50%
	ミーティングルーム1	75 m ²	30人	会議・その他	65%
	ミーティングルーム2	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	ミーティングルーム3	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	たたみスペース	60 m ²	20人	茶道・着付け・将棋等	30%
	ものづくり工房	60 m ²	20人	工作・陶芸・絵画等	35%
キッチンスペース	40 m ²	20人	調理・その他交流等	15%	

施設の最適化・縮充ばかりでなく、施設整備の目的や将来を見据えた空間づくりが必要。

<多様性>

子どもたちを始め、様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に安心して活用でき、心地よく滞在できる施設とします。

<柔軟性>

新しく自由度の高いニーズに対応しつつ、完成後もニーズの変化に合わせた用途や機能、間取り、改修に対応可能な柔軟性や融通性を確保します。

<施設管理>

未来の50年を見据えた複合化・長寿命化により行政サービスを継続し、今後の公共施設マネジメントの道しるべとなる施設とします。



ユニバーサルデザイン



滞在空間



授乳室



木質化



省エネ対策



従来の空間に新しい要素を混ぜる

複合化のメリットを生かし、従来の機能は維持しながら、新しい機能が混ざり合い、共存した計画とします。例えば、静かで集中できる閲覧室とギャラリー、又は多目的に使える部屋と、オープンなイベントスペースや、子どもたちがのびのびと動き回れるスペースとの共存等が考えられます。



シーンに合わせた可動式間仕切り

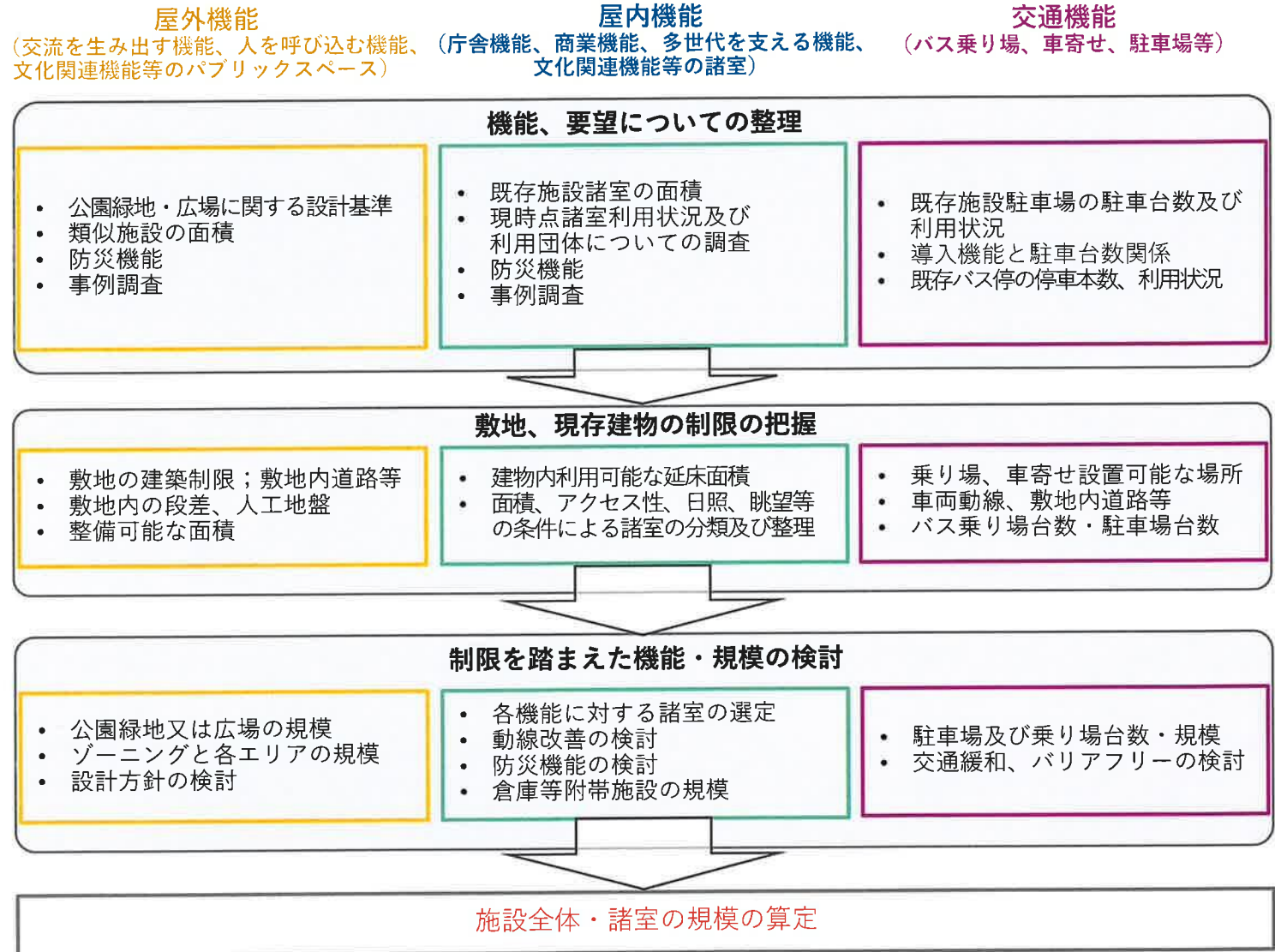


多目的に使える場所

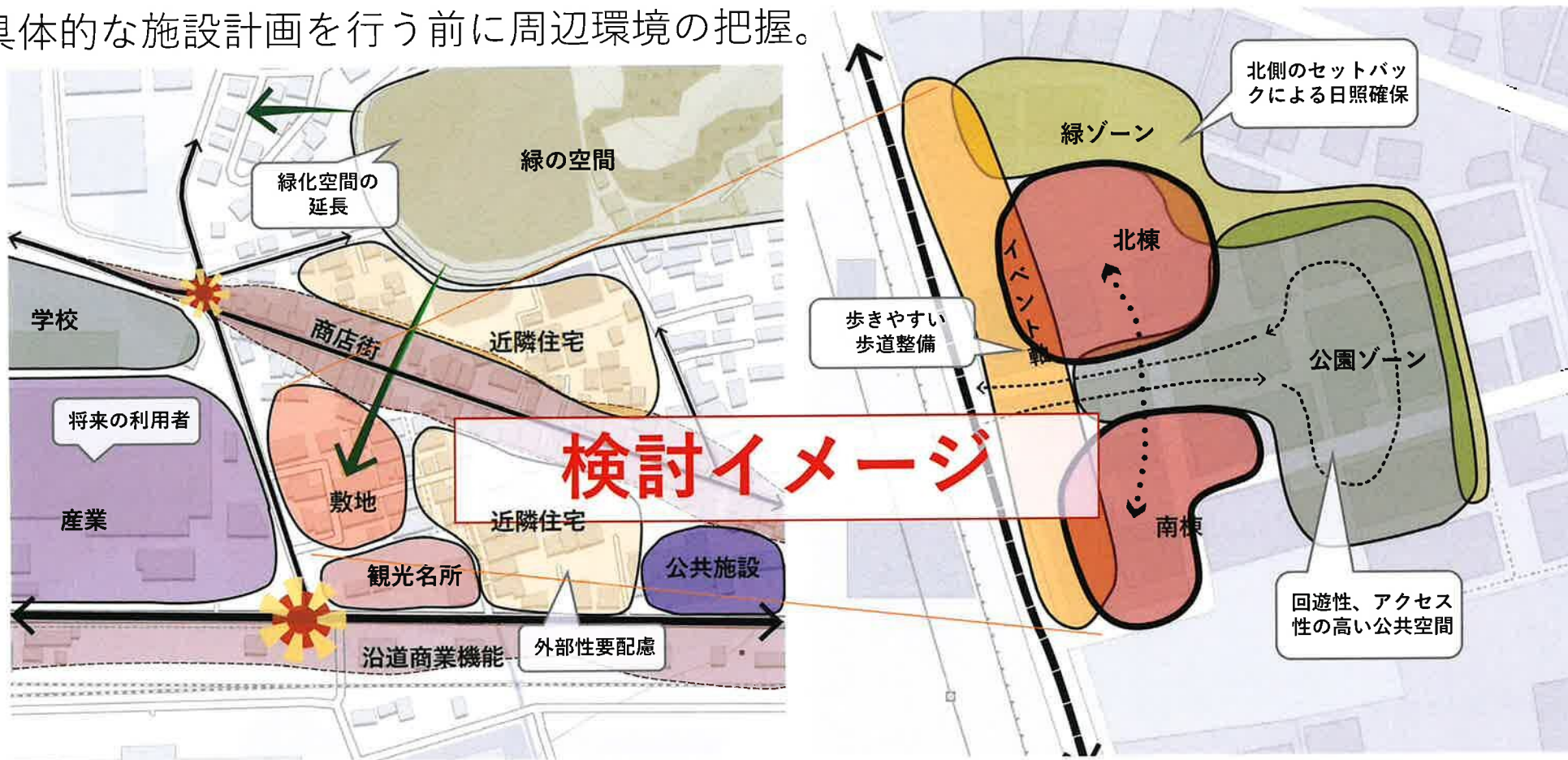
必要な機能を整理し、各機能の推奨規模を把握し、現地の制限を考慮したうえで機能の算定を行う。

- 必要な機能の検討
- 敷地、建物の条件の把握
(交通環境・インフラ・自然災害及び立地特性)
- 利活用整備に際し制約が考えられる関係法令等の整理

塩田庁舎利活用規模検討フロー



具体的な施設計画を行う前に周辺環境の把握。



緑ゾーン：
植栽帯の設置により景観を配慮し、セットバックを設け日照を確保します。

イベント軸：
マルシェや祭りの開催を通じて地域の活性化を図り、交流を促進します。

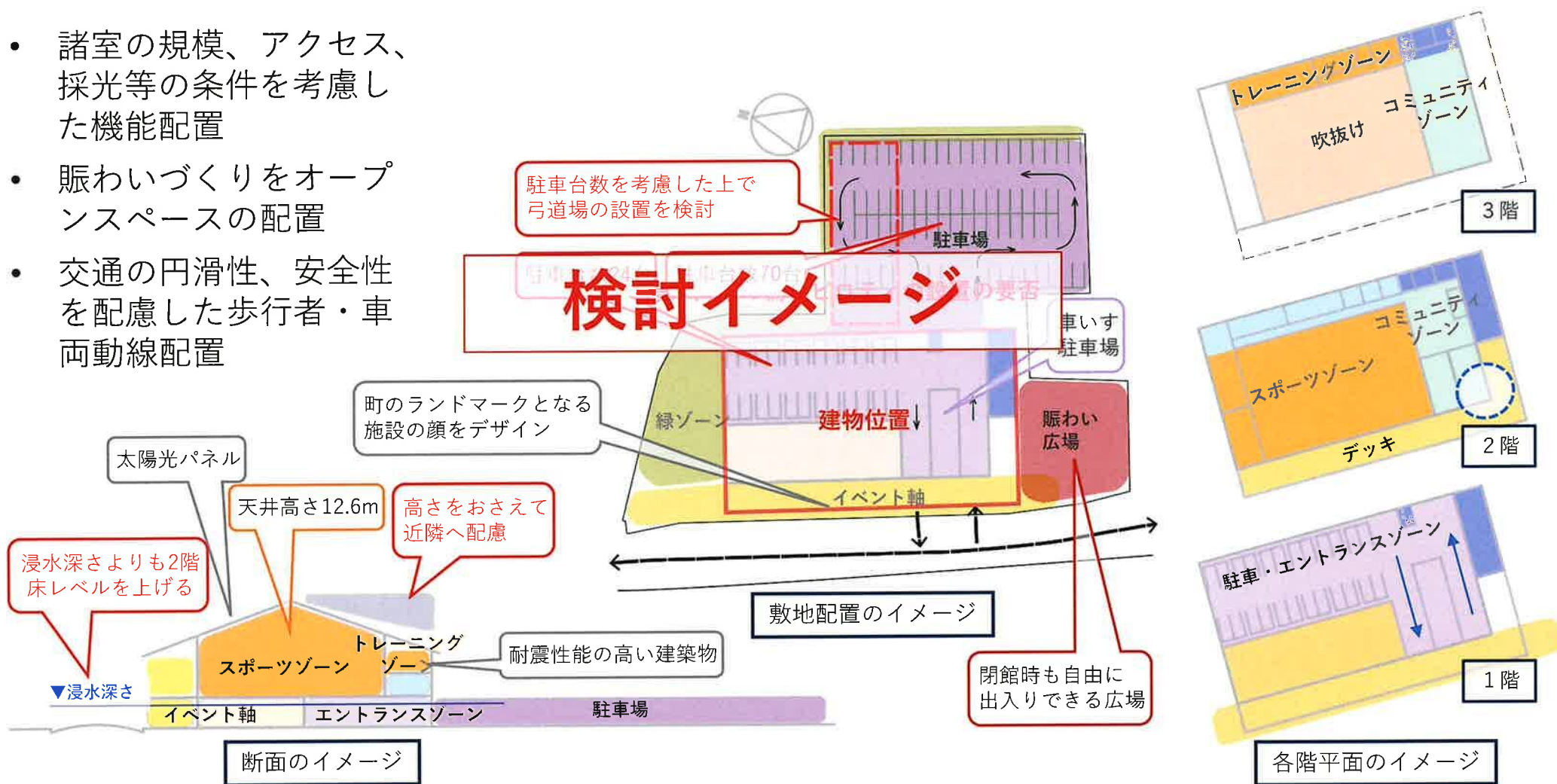
建物ゾーン：
建物を南、北二棟に分け、景観インパクト、機能性を図ります。

公園ゾーン：
芝生広場、児童遊園を設置し、動線の円滑化を通じてアクセシビリティの向上を図ります。

敷地内各場所の機能、役割

敷地、既存の建物の条件を踏まえて敷地配置を行い、諸室それぞれの特徴を活かして利活用を計画する。

- 諸室の規模、アクセス、採光等の条件を考慮した機能配置
- 賑わいづくりをオープンスペースの配置
- 交通の円滑性、安全性を配慮した歩行者・車両動線配置



基本計画策定の進め方④ー7 ～参考:施設再編(利活用)案の進め方～

いろいろな方向性や将来への可能性を踏まえ、複数案のメリット・デメリットを比較検討。

比較項目	たたき台①	たたき台②	たたき台③
たたき案	現文化会館に當麻庁舎を移転 + 図書館の整理	緊急避難から最低限の整備・機能を確保	現文化会館に図書機能、現図書館に當麻庁舎を移転
イメージ図	<p>2025年度まで</p> <p>當麻庁舎を現文化会館に複合化し、現分庁舎は資料保管を中心に利用。また新庄図書館と連携して現図書館の2階を整理し、自習室を確保。民間整備の可能性検討。</p>	<p>2025年度まで</p> <p>現分庁舎、現文化会館、現図書館とも緊急避難とほぼ同じ利用方法が継続するため、現分庁舎以外の混乱は少ないが現状課題も解決しない。民間整備の可能性検討。</p>	<p>2025年度まで</p> <p>図書機能は現文化会館に複合化し、現図書館は當麻庁舎に転用。現文化会館は有効活用が実現するが、高額な改修費が必要。民間整備の可能性検討。</p>
概要	現文化会館に現分庁舎から當麻庁舎を移転し、複合化することで有効活用を実現。合わせて現図書館の2階を自習室として開放し、学生らが集うスペースを確保する。	當麻庁舎は現分庁舎のまま移転せず、現図書館もそのまま利用することで、整備費用も最低限に抑制。	図書機能を現文化会館に移転し、複合化することで現文化会館の有効活用が実現。また現図書館を當麻庁舎に転用することで、余裕のある窓口業務の実施が可能。
ポイント	現文化会館の低利用スペースの有効活用。 ただし総合窓口の場所や利用者導線の確保、継続利用に必要なホール改修が課題。 現分庁舎の改修は最低限となり、費用圧縮になる。 現図書館の2階を自習室として活用することにより、特に若い人が集う拠点になる可能性大。	現文化会館や現図書館はそのままの用途で利用するため、利用者にとっては最小限の影響で実施可能。 現分庁舎しか追加改修しないため、費用圧縮が実現。ただし、周辺施設の機能維持には改修が必要なため、総費用はたたき台①とはほぼ相違なし。 現施設の課題(利用状況の改善、空間の過不足、継続利用に必要なホール改修など)は解決しない。	現文化会館に図書機能を付加するため、構造的な確認・改修や利用者導線の確保が課題。 現図書館は総合窓口、現分庁舎は資料保管を中心に利用できるため、利用者のスペースは最大確保。 現施設の課題(利用状況の改善、空間の過不足、継続利用に必要なホール改修など)は解決しない。
費用			

検討イメージ

大切なのはひとりひとりが自分ごとで考えた地域の将来像。

